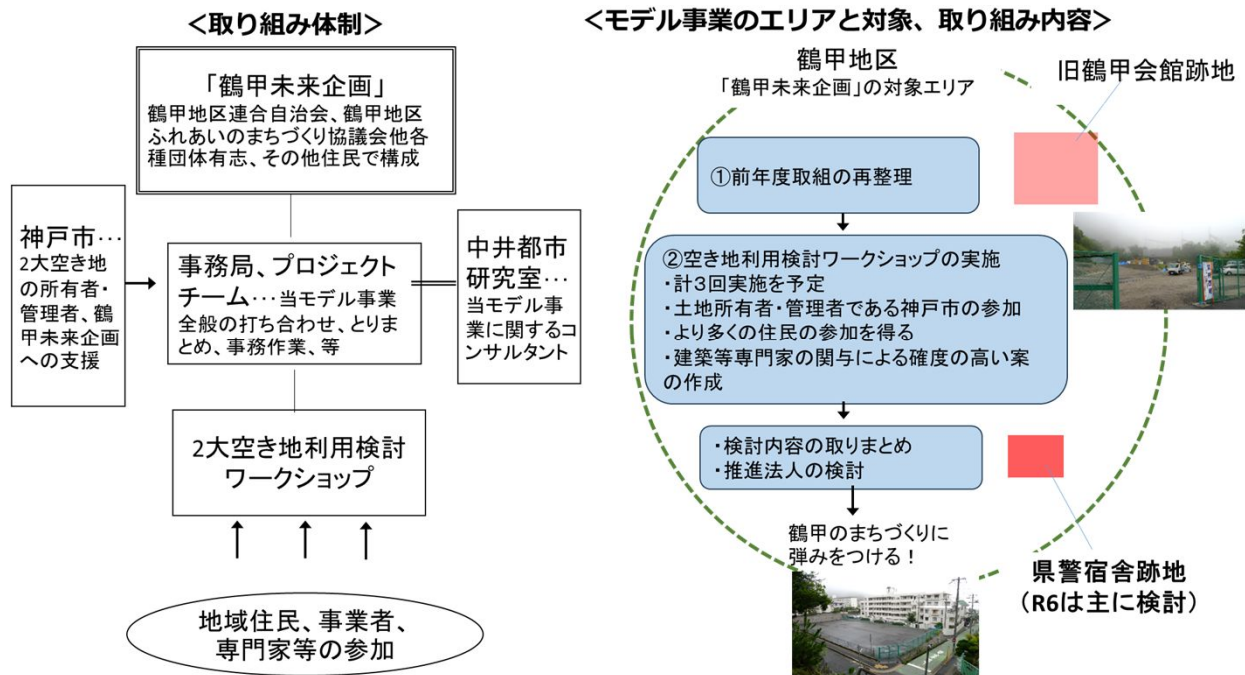


対象地域	対象地域の特性	地域が抱えている課題	主な取組内容
神戸市灘区鶴甲地区	灘区山麓部に55年前の高度成長期に開発された団地で、現在は六甲山山麓部で神戸大学も地区内に有する閑静な文教住宅地。最寄り駅である阪急六甲駅から約3kmに位置し、市バスも2系統あり交通利便性は高い。	団地の大部分を構成する35棟の中層住宅は“2つの古い”に直面（住民の高齢化、建物の老朽化）。団地内に市所有の空き地が2か所（鶴甲会館跡地、警察官舎跡地）存在するが、地域団体との空き地利活用に関する協定もなく、地域にとって不安定な状況。昨年度の住民ワークショップ等により作成された利活用案の実現（行政や地域団体の連携）。	● 空き地利活用検討ワークショップを実施（計3回）し、確実性の高い利活用案にとりまとめる（比較的、地域の要望が強い警察官舎跡地の利活用を推進） ● プロジェクトチームによる検討内容の再整理、とりまとめ ● 推進法人設立に向けた検討（地域内の既存NPOの継承や新規法人設立等）

事業内容・スキーム

- 前年度の検討の成果を引き継ぎ、対象となる空き地の利活用に関してより実現の可能性を高めるための取組を行い、空き地利活用の提案をとりまとめることを目的とする。
- 具体的には、地域住民、行政、専門家等が参画するワークショップを実施し、鶴甲未来企画の役員を中心に構成するプロジェクトチームでとりまとめを行う。
- 事業全体は、鶴甲未来企画を実施主体として、専門家のサポートも得ながらマネジメントを行う。
- ワークショップ（全3回）では、公募による住民が主体となり、神戸市、専門家（不動産、建築、コーディネーター）の協力を得ながら進めることとする。



モデル事業による取組成果

合意形成のプロセス構築

取組当初から、ワークショップを通じて最終的にどこに到達するのかが目標が定められたことで、各ワークショップの目的が明確化され、ワークショップ参加者が考え行動しやすくなるとともに、効率的に運営につながった。また、2つの案（「A.すぐにでも実現可能な案」、「B.恒久的な案」）を提示したことで、空き地利用の実現過程も含めイメージを共有することができた。この2年の取組を通じて、地域の合意形成を進めていくプロセスをつくることができた。

ワークショップ参加者の機運醸成

参加者は、第1回から継続して参加している者が多く、満足度が高いことがうかがえる。参加者の意向を最大限尊重するとともに、結果を随時、ニュースレターとして公表することで、参加者の地域に対する「愛着」、「責任感」等の醸成が進んだと考えられる。若い世代の参加促進の観点から、QRコードによる参加募集を今回の取組で試験的に実施した。今後の参加者の広がりに向けて、若者世代の参画は重要な課題と考える。

神戸市との関係づくり

ワークショップを通して、検討対象の空き地の所有者・管理者である神戸市の協力・支援を受けることができたことで、暫定的整備の方針や恒久的整備に向けた展望等を互いに共有・検討していく関係性ができた。